
1

須田 宏輔

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

1

【Nコード】

N7209X

【作者名】

須田 宏輔

【あらすじ】

モバゲーにて日記に公開中

目の前ですすり泣く女のこと急に疎ましく思えてきて、僕は無言のまま煙草に火を点けた。

僕は彼女を愛している。いや……愛していた。何故だろう、どこで狂ってしまったのだろうか。

彼女だけを愛していたのに、彼女だけはそれを信じてくれなくなってしまった。

君は僕の何が欲しかったの？　僕は何をすれば信じてもらえたんだろう？

薄暗い部屋の中、右手の先にある小さな火種から昇り、広がっていく白い煙をぼんやり見つめながら、僕は考えた。

答えなんて出なかった。わかったのは、
今、ここにいる彼女の前で、過去を思うような気持ちになっている僕が最低だということだけだ。

さらさらで艶々の長く美しい黒髪は今、俯く彼女の小さな顔を隠してしまっている。

彼女は僕に何度も質問した。『どうして私が好きなの？』『どうして私なの？』と。

僕は必死に考えた。

彼女は美人だ。スタイルもいい。笑うと、ものすごく可愛い。くだらない、後付の理由ばかりが浮かんでは消えた。

だって僕は、彼女がどうしようもなく不細工でも、きっと好きになったから。

彼女は完璧主義で、強がりで、隙なんて微塵も見せないように振舞っていた。でも本当は臆病で、寂しがりで、とてつもなく弱い。そ

んなことは会つてすぐに分かったけど、それでも必死に自分を強く見せようとする彼女の瞳に、僕は惹かれたんだ。それを言うことは出来なかった。

言ったら、彼女の大切な何かが壊れるような気がしたから。

どうしてだろう。

僕は彼女のことを愛しく想っているのに、もう何もかも面倒になつてしまった。

僕のこの気持ちはきつと、もう愛ではない。そうでなければ、こんなことにはならなかった筈だから。

どこを見えていても、僕の気持ちは彼女だけに向けられていた。でもきつと僕は、それを伝えることが出来なかったんだ。

そしてそんな愛の空回りは、僕と彼女をどうしようもないほど疲弊させてしまった。

僕はもう、君を引き寄せる腕すら動かせない。

いま二人の間に横たわる、無言という見えない壁を打ち壊す気力もない。

どのくらい時間が経ったのだろう。

僕は持っていた煙草を全て吸い尽くし、やはり無言のまま彼女の部屋を出た。

もう二度と、このドアをくぐることはないだろう。

ドアが閉まる寸前、僕の名を呼ばれた気がした。

きつと、気のせいなのだろう。

彼女は僕を追いかけない。

わかっているぞ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7209x/>

1

2011年10月19日01時34分発行